

# 保護者調査【対象：小学5年生・中学2年生の保護者、PTA・保護者の会関係者】

## 1. あなたのことについて、教えてください。

### 質問1 あなたは、どの年代ですか。

選 択 肢	回 答	選 択 肢	回 答
① 29歳以下	0.4%	⑤ 45～49歳	28.7%
② 30～34歳	3.5%	⑥ 50～54歳	8.6%
③ 35～39歳	20.4%	⑦ 55～59歳	1.4%
④ 40～44歳	36.6%	⑧ 60～64歳	0.4%

### 質問2 あなたは和光市にどのようにして住むようになりましたか

選 択 肢	保 護 者
① 和光市で生まれ育った	11.3%
② 県内の別の市から転入してきた	19.2%
③ 県外から転入してきた	67.8%
④ 外国から転入してきた	1.1%
⑤ その他	0.6%

#### 【考察】

- 市制50周年を迎える本市において、学齢期の保護者の約7割近くが③と回答しており、今日においても人口微増傾向にある自治体の状況と捉えることができる。

### 質問3 あなたのご家庭では、子供が帰ってくる時間帯にどなたか大人の人はいますか。

選 択 肢	
① いる	② いない
69.5%	30.5%

#### 【考察】

- 大都市近郊自治体に居住する住民として、もっと共働き家庭が多いものと予測をしていたが、①が約7割であったことから子育てを優先しての働き方の工夫によるものと捉えられる。

### 質問4 あなたのご家庭で、「子供たちにしている、させている。」ことは何ですか

選 択 肢	保 護 者
① いつも決まった時刻に起床・就寝させるようにしている	71.7%
② 毎日、朝食を食べてから学校に行かせている	94.9%
③ 夕食は、だいたい家族がそろって食べるようにしている	58.3%
④ 子供ができるお手伝いをさせている	69.6%
⑤ 子供に過度に干渉しないようにしている	46.3%
⑥ パソコンやスマホで遊ぶゲームの時間を決めさせている	51.7%
⑦ 携帯電話やスマホを使いきまりや約束をつくっている	56.5%
⑧ 普段、子供の勉強を見るようにしている	42.1%
⑨ いつも子供と触れ合う時間をつくっている	50.1%
⑩ 子供の話をよく聞くようにしている	72.9%
⑪ 守るべきことなどのしつけを厳しく教えている	65.3%
⑫ その他	2.6%

・家庭学習習慣の確立 ・親の理想を押し付けない ・スマホの扱いについて（制約を設ける、解約、禁止）  
 (4) ・一緒に遊ぶ ・家族の時間を大切にしている ・自分で考えさせる機会の醸成 ・お金の使い方  
 (2) ・読み聞かせ ・挨拶の仕方（目を見て）

#### 【考察】

- 家庭で「子供たちにしている、させている」の回答が、②が約95%の数値を示しており、成長期にある子供たちの健康の維持・増進の観点から大変好ましいものであり、また、①、④、⑩が約70～73%と比較的高い数値であることも、生活リズム、基本的な生活習慣等を形成していく上で効果的であると捉えられる。

## 2. 教育の全般について、教えてください。

質問5 あなたは、子供の教育について困っていることはどんなことですか。

選 択 肢	保護者
① 子供の学力や学習状況を心配している	62.4%
② 子供の体力や健康が心配である	38.8%
③ 子供の生活態度や行動が心配である	36.5%
④ 家庭でのしつけや教育方法が心配である	24.7%
⑤ 子供と接する時間が取れていないことが心配である	14.9%
⑥ 子供の教育について相談できる場所があまり分らないことが心配である。	10.6%
⑦ 子供の勉強や生活について相談できる人があまりいないことが心配である	9.4%
⑧ 学校や子供のことが、あまりよくわからないことが心配である	13.1%
⑨ その他	8.8%
・ゲーム、スマホ ・学校家庭の教育方針の違い ・教育費 ・子供との時間が取れない ・小学校への保護者の依存 ・子供の将来 ・子供の忙しさ ・生きる力が身に付いているか ・高校受験のことがよくわからない ・学校の様子が分からない(2) ・子供の学力 ・思春期への対応 ・学校のデジタル化が進まないこと ・部活への取り組み態度 ・コロナ感染症対応への感謝 ・特になし等 (27)	

### 【考察】

- 子供の教育に関わることについて、①の約6割はある程度予測できる数値であるが、⑥、⑦、⑧などが約9～13%と低い数値を示しており、これをプラスの面での見方でよいものか迷うところである。特に、⑦が約1割であったので、家庭と学校・教員との相談・連携が日常的に図れていることの表れと捉えることができれば素晴らしい。

質問6 あなたが、子育てや教育について困ったり悩んだりしたとき、主に誰に相談しますか。

選 択 肢	保護者
① 夫あるいは妻	62.4%
② 自分の両親（義父母含む）	8.1%
③ 子供の同級生の保護者	7.6%
④ 自分の友人や知人	10.5%
⑤ 学級担任	1.0%
⑥ 学校の教育相談室など	0.3%
⑦ 職場等の仲間	2.8%
⑧ 市の相談室	0.1%
⑨ 相談せずに自分で解決	5.2%
⑩ その他	1.9%
・子供(2) ・学校や相談室等 ・家庭教師 ・姉妹 ・インターネット ・相談できず絶望感しかない	

### 【考察】

- 子育てや教育に関わる悩みの相談先が、①が約6割を超えていることについては、家庭内でしっかりと受け止められていることの表れと捉えられるが、⑤、⑥、⑧の数値がたいへん低いことについては、思春期の子供たちが抱える課題に対して、具体的な支援が講じられるような相談体制の充実を図っていく必要があるものと捉える。

**質問7 あなたは、わが子がどのように育ってほしいと思っていますか。**

選 択 肢	保護者
① やさしさや思いやりのある子	74.9%
② 創造性があり明るい子	13.0%
③ 学力に優れている子	5.9%
④ スポーツや芸術に優れている子	3.2%
⑤ 健康でたくましい子	40.6%
⑥ 約束や決まりが守れる子	36.3%
⑦ 向上心があり、目標を持っている子	30.7%
⑧ 公共心やモラルのある子	17.0%
⑨ 協調性とコミュニケーション力を持っている子	38.3%
⑩ 視野が広く国際感覚を持っている子	5.0%
⑪ 問題解決力のある子	29.6%
⑫ その他	1.7%

・自分をしっかり持ち、どんな状況にも対応できる柔軟さのある子 ・健康で感謝ができ、人に愛を与えられる人 ・人として賢い子 ・物事から逃げずに戦える子 ・無理しすぎない ・自立して生活できる子  
(2) ・自己肯定感が高い子 ・生きているだけでよい ・努力できる子

**【考察】**

- 我が子の成長に関わって、①が7割を超える数値であることは、やはり人間として兼ね備えていくべき大切な資質と捉えられている表れと思われる。一方、③、④、⑩等は、もっと高い数値を予測していたが意外であった。この点からは、子供たちの成長に、親として特別なことを求めているのではないことを伺い知ることができる。

**質問8 あなたが、子供の教育で関心をもっていることはどんなことですか。**

選 択 肢	保護者
① 基礎的・基本的な学力の定着について	82.2%
② 健康や体力の向上について	46.4%
③ 基本的な生活習慣について	41.7%
④ 道徳性や規範意識について	44.8%
⑤ いじめや不登校について	18.9%
⑥ 学校の施設・設備について	4.1%
⑦ 家庭でのしつけについて	10.9%
⑧ 家庭でのコミュニケーションのあり方について	16.7%
⑨ 教職員の資質について	12.8%
⑩ 地域や家庭環境による教育格差について	10.1%
⑪ コミュニティ・スクールの推進について	1.9%
⑫ その他	1.2%

・自己肯定感をもち自信がついていくことについて ・受験について ・Edtech活用とアダプティブラーニングについて ・発達障害児の未来

**【考察】**

- この質問で、①の8割を超えた数値は、学校教育に求める基本的な関心事の表れであり、②、③、④については、いずれも約4割程度を占めており、学力、生活、規範意識などのバランスの取れた育成が期待されているものと捉えられる。一方、現在、取組が推進されている⑪の低い数値については、コミュニティ・スクールの意義や役割が十分に理解されていない結果とも捉えられることから、円滑な推進を図るための啓発が必要である。

質問9 あなたは、和光市の小・中学校の教育についてどのようなことを望みますか。

選 択 肢	保護者
① それぞれの教科の基礎となる学力の定着に力を入れてほしい	38.0%
② 子供の意欲を喚起し、さらに伸ばす指導に力を入れてほしい	48.6%
③ 英語教育や国際理解教育に力をいれてほしい	17.4%
④ 情報教育やICT活用能力の育成に力を入れてほしい	14.5%
⑤ 各学校の特色を生かした魅力ある学校づくりに力を入れてほしい	4.3%
⑥ 部活動や課外活動の充実に力を入れてほしい	5.2%
⑦ 進路指導やキャリア教育の推進に力を入れてほしい	7.9%
⑧ 教員と児童生徒の信頼関係づくりに力を入れてほしい	16.4%
⑨ 道徳性や規範意識を育ててほしい	9.5%
⑩ 基本的な生活習慣を身に付けさせてほしい	2.1%
⑪ 食育を通して健康な体づくりをしてほしい	2.2%
⑫ 安全・安心な学校環境づくりをしてほしい	15.1%
⑬ 地域に関心をもてる学習の充実を図ってほしい	1.0%
⑭ 教員を育成する研修を充実して、指導力を高めてほしい	7.0%
⑮ 施設・設備をもっと充実してほしい	6.1%
⑯ その他	2.9%
・得意分野をもっと伸ばせるよう、一人ひとりのレベルにあった教育を受けさせたい ・正しい性教育を行い、望まない妊娠や性被害を防いでほしい ・校則が今の社会の状況にあってなく古い ・自己肯定感を高められるようにしてほしい ・部活動における外部指導者について、正しい指導ができるようにする ・学習障害の子のケアが足りない ・問題行動の多い子供に学級を乱されないように副担任の設置を ・保護者への教育に係る研修が必要 ・自宅学習選択制、授業の中継など ・高校受験についての進路指導を早い段階からやってほしい ・答えありきの道徳教育をしないでほしい ・オンラインでの授業の拡充 ・不衛生な共有物、施設を改善してほしい ・通級指導教室を全小学校に設置してほしい ・算数等の教科の授業を習熟度別にしてほしい	

【考察】

- 市の教育の在り方に係るものであり、①、②の約3～5割近い数値は当然の願いであるだろうし、③、④などの数値は、今日的な教育課題として受け止められているものと捉えられる。

質問10 あなたが、子供たちに身に付けさせたいと思う力はどのようなことですか。

選 択 肢	保護者
① 各教科の基礎的な学力	51.8%
② 外国語を活用したコミュニケーション力	30.4%
③ 体力や運動能力の向上	24.2%
④ 健康や安全について自己管理できる力	27.6%
⑤ 音楽や美術などの芸術に係る感性と能力	6.9%
⑥ 自己肯定感を高め、将来について考えられる力	53.5%
⑦ 物事を計画的に行う実行力や解決する力	41.2%
⑧ 常に工夫改善を図り、新しいことを創造する力	12.0%
⑨ 自分の考えを表現できる力	49.4%
⑩ 目標をもって学ぼうとする力	30.1%
⑪ 社会生活を営む上で善悪を判断できる力	20.9%
⑫ 友達や周りの人との関わりができるコミュニケーション力	47.2%
⑬ いじめや差別をしない公平・公正な態度	18.8%
⑭ 自分のふるさとを愛する心	0.3%
⑮ 基本的な生活習慣	7.7%
⑯ 言葉遣いや礼儀作法	18.6%
⑰ 携帯・スマートフォンの利用に係る情報モラル	5.5%
⑱ 我が国や郷土の伝統や風習などを理解し受容する心	1.7%
⑲ 社会生活を営んでいく上で必要な常識や公共心	18.0%
⑳ 自分の生き方を考え、今を大切にする態度	22.9%
㉑ その他	0.1%
・学生時代、関わる人すべてが人生の宝であることを認識してほしい	

【考察】

- 予測不可能な社会において、⑥、⑨、⑫などは約4～5割を超える数値であり、重要な課題であると捉えられる。特に、本市の子供たちにとっての課題でもある⑥については、学習のあらゆる場や機会を通して、⑨の資質向上を図っていくことで高められるような取組が求められる。

質問11 あなたは、ICT（情報通信技術）活用教育にどんなことを期待していますか。

選 択 肢	保護者
① インターネットなどから得られた情報等の活用能力の育成	19.8%
② パソコンや電子黒板等の情報機器を活用した学習の充実	16.4%
③ 情報機器の基本的な操作等の習得	16.3%
④ 情報機器を学習に効果的に活用できる能力の育成	24.0%
⑤ プログラミング教育の基本的な理解と活用能力に育成	22.4%
⑥ その他	1.1%
・ネットセキュリティ・リテラシー ・リモート学習ができるようになってほしい ・よくわからない	

【考察】

- ICT教育の推進においては、いずれの項目も重要であることから①～⑤の数値にさほどの差はないが、中でも④、⑤については、今後のICT機器活用の充実を期すためにも、明確な方向性をもって取り組んでいく必要がある。

3. 家庭・地域における教育について、教えてください。

質問12 あなたのお子さんが通学している学校の取組や活動について、思っていることや感じていることはどんなことですか。

選 択 肢	保護者
① 学校だよりや学年・学級だより、ホームページは役立っている	81.2%
② 子供たちの学力の状況について、学校はよく説明してくれる	14.4%
③ 子供たちに育成すべき資質や能力等について、分かり易く説明してくれる	7.7%
④ 家庭学習の仕方をしっかりと教えてくれる	5.1%
⑤ 保護者や地域の要望や願いを受け止め、適切に対応してくれる	16.6%
⑥ 子供の教育に係る相談や要望について、しっかりと対応してくれる	15.2%
⑦ 先生方の教育に対する熱意や意欲が感じられる	24.6%
⑧ 我が子を安心して通学させられる学校だと思っている	50.3%
⑨ その他	4.6%
・HP更新が少ない ・子供たちの自主性と人権の尊重 ・学校と家庭の意見交換の場が欲しい ・宿題が少ない ・通学路が危険、登下校方法の改善を ・先生によって取り組む姿勢が違う ・赤点でも補修がないことに暗澹たる思い ・保護者の顔色を気にせず、プロの自覚で頑張してほしい ・教職員の資質 ・学校の目標や計画、姿勢が具体的に見えない ・メール内容が分かりにくい ・コロナの影響か担任の方針が分からない ・学級の様子が分からない ・設備が不十分 ・校長先生のフットワークが軽く、発信力も高いから学校の様子がよくわかる ・学校の取り組む様子が徐々に低下しているように見える ・わからない等 (7)	

【考察】

- 通学先の学校の取組に対して、①、⑧が約5～8割の数値であることから、非常に好意的に受け止めていただいていると捉えられるが、②、③、⑤、⑥の数値の低さが気になるところである。特に③などは、子供たちの成長に関わることにについて家庭・学校でしっかりと共有していくことが重要であることから、情報等の発信の仕方に工夫が必要と思われる。

質問13 あなたが、今までに参加・出席された学校の行事や活動には、どんなものがありましたか。

選 択 肢	保護者
① 運動会・体育祭や文化祭などの行事	95.4%
② 授業参観や学校公開	95.7%
③ 保護者会（学年・学級懇談会）	92.0%
④ PTA・保護者会活動（おやじの会等）	61.5%
⑤ 学校応援団などの活動	9.1%
⑥ 教師との面談（三者面談等）	83.0%
⑦ 部活動などの参観、応援	35.6%
⑧ 体験活動や学習活動等の支援等	26.5%
⑨ 子供たちの安全を守る巡回活動等	40.1%
⑩ その他	1.2%
・読み聞かせボランティア ・厚生活動又は有志活動 ・入学式 ・育成やPTAなどへの参加が大きな負担	

【考察】

- 保護者の学校への関わりについてであるが、①、②、③の数値は、ほとんどの保護者が参加されている表れである。PTA活動の在り方などは今日的な課題でもあり、共通理解・認識のもとでの活動の充実が必要である。

**質問14 あなたが学校を訪れた回数は、およそ一年間で何回くらいですか。**

選 択 肢	保護者
① 3回以下	11.3%
② 4～6回	40.9%
③ 7～10回	26.8%
④ 11～15回	9.8%
⑤ 16～20回	4.3%
⑥ 21回以上	6.9%

**【考察】**

- 年間での回数として、②、③の数値は一般的なものであり、それらを超える回数はPTA等の役員をされている方であると捉えられる。仕事等との関係と思われるが①が約1割程度を占めていることからあまり学校に来られない保護者との、家庭と学校を繋ぐ具体的な方策が求められる。

**4. 和光市の教育施策について、教えてください。**

**質問15 和光市が取り組んでいる教育施策の中で、あなたが重要と思われるものはどんなことですか。**

選 択 肢	保護者
① 少人数指導推進教員、学力向上支援教員の配置	51.4%
② 豊かな心を育む道徳教育の振興と充実、人権教育	31.4%
③ 国際理解教育、国際交流の推進（外国人指導助手の配置等）	27.3%
④ 教科指導におけるICT活用の推進	23.2%
⑤ 朝読書や読み聞かせなど読書活動の推進・充実	17.5%
⑥ 教育相談体制の充実	7.6%
⑦ 不登校やいじめに係る問題解消を図る取組	25.6%
⑧ 児童生徒の健康や体力向上を図る取組	16.6%
⑨ キャリア教育・職業体験活動の充実	11.5%
⑩ 地域ボランティア活動の推進・充実	10.6%
⑪ コミュニティ・スクール、学校応援団などの学校・家庭・地域の連携	7.0%
⑫ 学校施設・設備の維持管理	13.1%
⑬ 安全・安心な給食の提供と食育教育の充実	21.0%
⑭ 幼・保・小の連携強化と円滑な接続の推進	5.1%
⑮ 特別支援教育の充実	6.6%
⑯ 小中連携教育の推進・充実	9.5%
⑰ その他	2.2%

・小学校に専科の先生を増やしてほしい ・教育者の意識の向上 ・安全、安心な学校づくり ・通信教材の貸し出し強化 ・教員の働き方改革 ・学級崩壊への対策 ・コロナ禍における決断が遅い ・少人数指導 ・わからない (2)

**【考察】**

- 市の施策に係る保護者の関心度合いであるが、①の5割超えは取組が見え易い面があること、②については従来からの道徳教育の取組が理解されていることによるものと捉えられる。③、④、については、今日的な教育課題として受け止められている表れと見ることができる。ここでも⑩の数値が1割にも満たない低さが気になるところである。

**5. コミュニティ・スクールについて、教えてください。**

**質問16 和光市で取り組んでいるコミュニティ・スクールについて、どのように理解されていますか。**

選 択 肢	保護者
① よく理解している	2.3%
② 理解している	7.0%
③ あまり分らない	59.1%
④ 分らない	31.5%

**【考察】**

- 質問15とも関わるが、③、④の割合が約9割と非常に高い数値を示しており、平成30年に全市指定した取組であるが、ほとんど保護者にとっては理解が進んでいないということであり、実質的な成果につながっていないことが課題である。

質問 17 和光市が進めているコミュニティ・スクールの取組で、期待できることはどんなことだと思いますか。

選 択 肢	保護者
① 基本的な生活習慣が身に付く	16.4%
② いじめや不登校の解消に結びつく	13.7%
③ 学力の向上につながる	11.5%
④ 地域行事等への興味・関心が高まる	13.0%
⑤ 挨拶ができるようになったり、ルールが守れるようになったりする	19.2%
⑥ 健康教育や体力向上につながる	2.1%
⑦ 思いやりやさしさ育成につながる	13.3%
⑧ 子供の防犯教育に役立つ	10.9%
⑨ 地域行事への参加意識が高まる	4.0%
⑩ 地域とつながりのある学校になる	17.4%
⑪ 相互の助け合いや協働活動が高まる	9.1%
⑫ 地域コミュニティが活性化する	10.2%
⑬ 学校の取組がよくわかるようになる	4.7%
⑭ よくわからない	52.3%
⑮ その他	2.5%

・様々な業種の人のお話を聞きキャリア教育に役立てる ・学校での取り組みを知りたい ・意見を出しやすいようにインターネットのツール活用 (2) ・子供たちへの影響はよくも悪くもない ・わからない (5)

**【考察】**

- コミュニティ・スクールの意義や役割がしっかりと理解されていないければ、重点的な成果を明確にすることはできないことから、どの項目もほぼ同様な割合となっている。年度ごとの取組の重点を示すことで、保護者の関心や理解を高めることができるものと捉える。